

演題名：

当院における子宮鏡下選択的卵管造影検査の現況－電子カルテ連動のファイルメーカーを用いての分析－

演者名：徐 東舜

抄録本文：

【目的】当院では2011年に診療データの処理用に電子カルテに連動したファイルメーカーを導入し、種々の臨床データの処理を行ってきた。今回、我々は当院で行っている卵管通過性の検査である子宮鏡下選択的卵管造影のデータを取りまとめたので報告する。

【方法】2011年1月から2018年3月の期間に当院不妊外来に初診で来院し、子宮鏡下選択的卵管造影検査した2621症例（平均年齢33.9±4.2）を対象とした。それらの検査結果を電子カルテに連動しているファイルメーカーに記録し、後日ファイルメーカーから子宮鏡と選択的卵管造影検査の異常の有無、さらに異常の場合、その具体的な異常所見を集計した。

【成績】子宮鏡の所見での異常の割合は17.5%(475/2621)で、異常所見の内訳の割合は子宮内膜ポリープ90.7%(431/475)、子宮筋腫8.8%(42/475)、アッシャーマン症候群3.6%(17/475)、子宮奇形3.2%(15/475)となり、最も子宮内膜ポリープの頻度が高かった。選択的卵管造影検査での異常の割合は14.7%(384/2621)で、その内訳の割合は片側卵管閉鎖77.3%(297/384)、両側卵管閉鎖22.7%(87/384)であった。

【結論】電子カルテとファイルメーカーを連動させて、検査時にデータ入力をしておけばその後、レトロスペクティブにデータをピックアップして集計するのに容易であった。今後は、得られたデータを分析して、臨床成績の向上に努めたい